

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900056		
法人名	一般社団法人いがしま		
事業所名	グループホームいがしま		
所在地	名護市久志192		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=4790900056-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成25年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関り(特に久志区)に力を入れ、区の行事等に積極的に参加し、利用者様と共に楽しんでいる。今後は、地域の子供達との交流も図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域に根差した高齢者サポート施設として、平成24年4月に久志区が運営する介護事業所として設立され、区長が理事長となっている。区民で構成する理事会は、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、それを基に職員は、利用者一人ひとりの尊厳を意識しながら日々の実践に取り組んでいる。事業所は、区の一員として位置づけられており、区の様々な行事に利用者も参加する等、日常的に近隣住民が事業所に立ち寄り利用者と交流している。また、事業所内で飼い犬を職員と一緒に飼育したり、利用者の中には、仏壇の掃除をするために職員と一緒に自宅へ頻繁に出かける等、施設長はじめ管理者や職員は、一人ひとりの想いに寄り添いながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年4月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が孤立することのないよう管理者、職員が協力して実践している	理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえ4つの柱から成り立ち、開所時に区民で構成する理事会が作成した。理念をフロア内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し職員間で共有を図っている。職員は利用者一人ひとりの尊厳を意識しながら日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の行事を通して、地域との関りを深めている(運動会・生年祝い等)	運営主体が区となっており、利用者は様々な区の行事や地域のミニデイに参加し、事業所が地域の一員として活動している。日常的に住民が事業所に立ち寄り、利用者の散歩時に住民と会話を交わしている。2か月毎に事業所の広報誌を発行し、区の全世帯へ配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に伝えるまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み等を報告し、会議で得た、意見や要望を事業所の取り組みとして生かしている。ただ、運営推進会議を開催した回数が少なかったので改善していきたい	運営推進会議は、昨年開所以来1回のみで開催で、利用者や家族、市の担当者、区の代表が委員として参加し、利用状況や活動内容を報告し、意見交換が行われている。	運営推進会議は2か月に1回以上の開催が義務付けられているので、定期的に開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	十分にできていると思われる。必要があれば、その都度、市役所に出向き話している	管理者は、随時役所の窓口に出向き、困難事例の相談や事業所の状況報告等を行っている。また、市の担当者が定期的に来所し研修案内や通知文書を広報する等、相互間で情報交換を行っている。事業所利用の相談に対して、行政と連携し他サービス事業所へ繋いだ事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない支援を心掛けており、実際に拘束も行っていない	玄関の施錠はなく、外に出る利用者には職員が付き添い、転倒等がないよう見守りに対応している。家族には、身体拘束をしない方針やそのリスクについて、利用開始時に説明している。拘束をしないケアに関するマニュアルは整備され、開所時に職員間で読み合わせを行っている。	

沖縄県（グループホームいがしま）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを通して学ぶ機会をもうけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や成年後見人と連携を取り活用できるよう支援している。対応者は施設長・管理者のみ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所と家族間で読合せを行いながら、その都度説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で家族の意見を伺っている	日々の会話の中から利用者の意見を直接聴いている。家族には、面会時や月1回程度、管理者が自宅訪問し状況報告を行う際に、意見や要望を聞く機会としている。家族からリハビリや食事の形態等について要望があり、速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護ミーティングや申し送り時に意見や提案を聞く機会を設けている	管理者は、月1回のミーティングや、随時行われる職員との個別面談の中で意見を聞いている。調理器具やその他備品の購入、業務の役割分担を変更する等、職員の意見が反映されている。職員の退職、入職時は、利用者に説明し理解を得るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加や資格取得を支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けやすい環境づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行えていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に傾聴し安心してサービスを利用できるよう良い関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談時に、施設長・管理者にて面会し、生活面・健康面等の話を傾聴している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難な場合が発生した時には、本人、家族の理解を得たうえで他のサービスの利用も含めた対応ができるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の能力に応じた作業等を一緒に行いながら、共同生活を支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、事業所に依存的になっており今後の課題として捉えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、顔を合わせたり、馴染みに場所に出向いたりできるよう支援している	旧友や以前利用していた事業所の職員が来訪したり、利用者の行きつけの売店へ出向いている。また、月2回地域のミニデイに職員と一緒に参加し、知人達と交流したり、職員は情報を得る等、馴染みの関係継続支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誤解やトラブルがないように、また孤立しないように、よりよい関係が構築できるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実績なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望に沿った支援を心掛け本人本位の暮らしができるよう支援している	利用者全員が意思表示ができ、直接本人から思いや意向を聴き把握している。利用が飼っている犬を事業所内で飼いたいとの意向により事業所で飼育している。また、週1回鍼灸師に出かけたり、自宅の仏壇の掃除に隔日に出向く等、一人ひとりの意向に沿って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、家族や本人から聞き取りを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大きな日課は定めず、日々の暮らしの中から有する能力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者で話し合いを行い意見等を反映した介護計画の作成を行っている	職員は、申し送りやミーティング時に介護計画について共有を図り、介護支援専門員が毎月モニタリングを実施している。担当者会議の際に利用者や家族の意見や要望を聴き、飼い犬の飼育等、介護計画に反映している。介護計画は、利用者の状態変化時や更新時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列のケース記録に、日々の状態や過ごし方を記録し、情報の共有に生かしている		

沖縄県（グループホームいがしま）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関での往診、必要時の他科受診、24時間の医療体制により柔軟に対応。また、買い物等の付添等も柔軟に行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との関り、ミニデイへの参加など、事業所外との交流も積極的に促がしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視しながら、適切な医療が受けられるよう支援している	受診は1人を除き、全員が家族の希望で協力病院の医師による訪問診療を受け、2名が訪問歯科により口腔ケアが行われている。他科受診は、職員が同行支援している。結果は、家族の面会時や電話で直接報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームへの配置はしていないが、24時間体制で協力医療機関の看護師との連携を密に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、相談員との情報交換や相談に応じている。また、定期的に入院先を訪問し、病状把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ある程度の方向性を話し合い、必要な時期がくれば、家族・主治医と話し合いを行いチーム支援に努める	重度化した場合の対応については、現状では医療機関等へ繋ぐ旨を利用開始時に家族へ説明している。家族からは看取りケアの希望があり、今後は、医療機関を含め、チームで統一した方針の検討を課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを熟読し、事故発生時の対応にあたっているが、訓練等は現在行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は現在行えていないが、災害時は協力は、区の区長、消防団の協力体制を築いている	事業所内は一斉通報装置等、スプリンクラーの防災設備が整備されている。当区には地域消防団が結成されており、地域としての訓練は実施しているが、事業所独自の訓練が未実施となっている。	災害対策として年2回以上の避難訓練が求められており、消防署等の協力を得て、昼夜の災害を想定した訓練の実施が望まれる。また、備蓄についての対応も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわないような支援を心掛けている。	理念に、利用者の尊厳を謳っており、排せつや入浴等は、同性介助を基本としている。職員は日課等においても、できるだけ自己決定に繋げる支援に努めている。また、地域出身の職員が多いこともあり、言葉かけ等、馴れ合いにならないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の思いや希望で自己決定に結び付けている。表せない利用者は、表情やしぐさなどから思いをくみ取り自己決定に近づけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に、事業所・職員側の都合を優先してしまう事もあるが、できる限り、一人ひとりのペースで1日を過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれができるよう、その人の力に応じ支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好品をできる限り考慮しながら食事づくりを行っている。また、手伝いが行える利用者には準備・後片付けを手伝っていただいている。	事業所内で3食調理し、献立は利用者の嗜好等を取り入れ、利用者も職員と一緒に食材の買い物や盛り付け等に参加している。円卓のテーブルで職員も共に食事を摂り和んでいる。月1回はドライブを兼ね外食を楽しむ支援も行われている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や好み、量、形態、時間帯、食事に関する全体を把握して、おいしく安全に過不足のない栄養が摂れるように配慮している		

沖縄県（グループホームいがしま）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている。また、訪問歯科のケアを利用し誤嚥予防・インフルエンザ予防に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレで行えるよう支援している。現在、大腿部の骨折の影響でオムツの方が利用されているが、定期的な排泄支援を行い、清潔保持に努めている	昼夜トイレ誘導し、排せつを支援している。同性介助を旨としているが、夜間は職員の勤務上、異性介助になる事もある。排せつチェック表は回数だけの記入となっているが、今後は、時系列のチェックを行い、自立に向けた支援を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態は申し送りに確認し、コントロールの必要な方は医師と相談し内服管理を行っている。便秘の予防には、食物繊維の多く含まれる食材、ヨーグルトを使用し便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽を利用したり、本人が入りたい時に入れるよう支援している。拒否の強い利用者に対しては、声かえを多く対応している	入浴は同性介助で行い、入浴回数は当初、自由設定であったが、数日入浴しない利用者があり、現在は、週3回の入浴を基本としている。また、希望により毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒否する利用者には、買い物や病院受診等、外出前の入浴を促し実施に結び付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室やソファで休息を取っていただき、夜間は個々の居室にて入眠し、居室の室温・入眠状況の確認を行い、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴り、職員が確認できるようにしている。また、状態に変化があった場合は主治医の指示のもと内服の調整を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが喜びのある生活が送れるよう、その人が持っている力に応じた役割を担ってもらったり、個々の希望に添った気分転換にも対応している		

沖縄県（グループホームいがしま）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩・外食・ドライブ等、できる限り本人の希望に添った外出支援に努めている。今後は家族との外出支援もアプローチしていきたい	区内の売店や大型スーパーでの買い物、歩行訓練を兼ねた近隣の散歩が日常的に行われている。また、桜祭りや海洋博等へ遠出のドライブを行い、気分転換も図っている。利用者が以前工事で関わった飛行場を見に行く等、個別支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方については、一部、様子をみながら自己管理をしてもらっている。能力が不十分な方に対しても、少額の金額を所持してもらい買い物時にやりとりができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は行われていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少し、ホールの照明が暗いと思われるが、できる限り、利用者にとって不快な思いをさせないように心がけている。もう少し、季節感等を出していきたい	食堂兼居間からは、屋外に車椅子でも自由に出る事ができ、居間のガラス戸からも屋外の様子が見え開放感がある。3か所のトイレは、ウォシュレットが設置されている。高床の8畳程の畳間では、利用者が洗濯物を整理したり、行事の舞台に使用する等、多目的に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時、以外は席を決めず、自由に座ってもらい個々の、思い思いの場になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望すれば、本人の馴染みの物を居室に入れていただき心地よく生活できるようにしている	居室には、ベッドや整理タンス、吊り棚、エアコン、二重カーテンが設置されている。テレビやラジオ等、自由に私物の持ち込みが認められ、各々居心地良い工夫がされている。また、位牌を持参し祭っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り、安全に安心して生活できるようにしている		